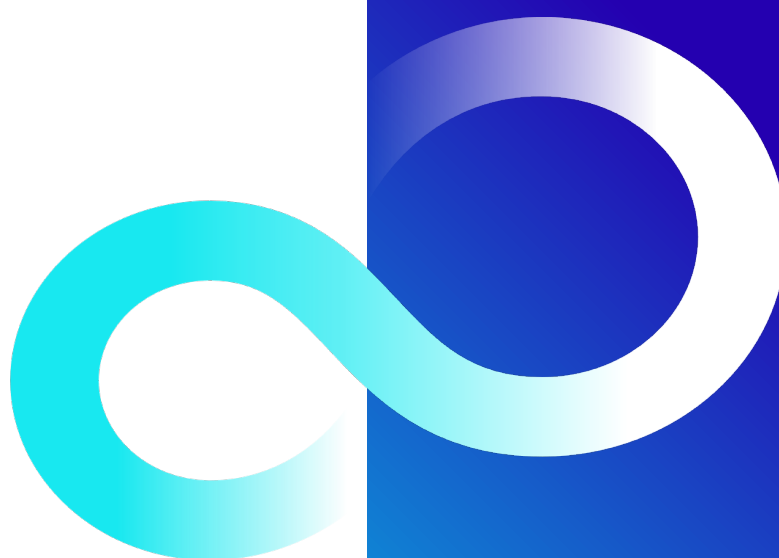


FUJITSU

XSCFコマンド集

2019年4月
第1.0版
富士通株式会社



本資料について

■ 目的

・本書は、SPARC M12/M10におけるシステム監視機構(XSCF)の主要なコマンドとオプションの使い方をまとめています。

■ 留意事項

・本書は、以下マニュアルを元に作成しています。本書に記載されているコマンドや各設定項目などの詳細は、以下のマニュアルをご確認ください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/unix/sparc/downloads/manual/xscf-ref/index.html>
- 『XSCFリファレンスマニュアル(XCP305x/235x版)』

使用条件

■ 著作権・商標権・その他の知的財産権について

・コンテンツ(文書・画像・音声等)は、著作権・商標権・その他の知的財産権で保護されています。

本コンテンツは、個人的に使用する範囲でプリントアウトまたはダウンロードできます。

ただし、これ以外の利用(ご自分のページへの再利用や他のサーバへのアップロード等)については、当社または権利者の許諾が必要となります。

■ 保証の制限

・本コンテンツについて、当社は、その正確性、商品性、ご利用目的への適合性等に関して保証するものではなく、そのご利用により生じた損害について、当社は法律上のいかなる責任も負いかねます。本コンテンツは、予告なく変更・廃止されることがあります。

■ 輸出または提供

・本製品を輸出又は提供する場合は、外国為替及び外国貿易法及び米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとり下さい。

商標

■ UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。

■ SPARC Enterprise、SPARC64およびすべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc.のライセンスを受けて使用している、同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

■ OracleとJavaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

■ その他各種製品名は、各社の製品名称、商標または登録商標です。

改版履歴

日付	版数	修正内容
2019年4月	1.0版	新規作成

XSCFコマンド一覧

コマンド	解説
addboard	PSBの組み込み、割り当て
addcodactivation	CPUコア アクティベーションキーの追加
adduser	XSCFユーザーアカウントの作成
appliednetwork	XSCFネットワーク設定の適用
console	制御ドメインコンソール接続
deleteboard	PSBの切り離し
deletecodactivation	CPUコア アクティベーションキーの削除
deleteuser	XSCFユーザーアカウントの削除
exit	XSCFシェルの終了
man	XSCFコマンドのマニュアル表示
nslookup	ホスト名の照会
password	XSCFユーザーアカウントのパスワード設定
ping	ICMPのECHO_REQUESTパケット送信
poweroff	PPARの停止
poweron	PPARの起動
rebootxscf	XSCFの再起動
reset	PPAR、論理ドメインのリセット
restorecodactivation	CPUコア アクティベーションキーの復元
restoredefaults	設定情報を工場出荷時に戻す
setcod	CPUコアリソースの割り当て
setdate	XSCFの時計の日付、時刻設定
setdomainconfig	PPAR起動時の論理ドメイン構成指定
sethostname	ホスト名、DNSドメイン名の設定
sethttps	HTTPSサービスの開始/停止/認証関連の設定
setinterimpermit	CPUコアの一時利用機能の有効/無効設定
setlocator	オペレーションパネルのCHECK LED点滅/点滅解除設定
setlookup	認証、ユーザー権限に関する参照先の設定
setnameserver	ネームサーバ、サーチパスの設定/削除
setnetwork	ネットワークインターフェースの設定/削除
setntp	XSCFの時刻同期設定
setpasswordpolicy	パスワードポリシーの管理
setpcl	PCLの設定
setpparmode	PPARの動作モード設定
setpparparam	OpenBoot PROM環境変数の強制書き換え、ブートスクリプトの登録/削除
setprivileges	ユーザー権限の割り当て
setroute	ルーティング情報の設定
setssh	SSHサービスに関する設定
settelnet	Telnetサービスの開始/停止
settimezone	XSCFのタイムゾーン設定
setupfru	ハードウェアに関する設定
showboards	PSBの情報表示
showcod	CPU コア アクティベーションの登録、設定情報表示
showcodactivation	CPUコア アクティベーションの情報表示
showcodusage	CPUコアリソースの使用情報表示
showdate	XSCFの時計の日付、時刻表示
showdomainconfig	PPARの論理ドメイン構成情報表示
showdomainstatus	論理ドメインの状態表示
showenvironment	吸気温度/温度/電圧/ファン回転/消費電力/排気量の表示
showhardconf	FRUの情報表示
showhostname	ホスト名の表示
showhttps	HTTPSサービスの状態表示
showinterimpermit	CPUコアの一時利用機能の状態/情報表示
showlocator	オペレーションパネルのCHECK LED状態表示
showlogs	ログの表示
showlookup	認証、ユーザー権限に関する設定表示
shownameserver	ネームサーバ、サーチパスの表示
shownetwork	ネットワークインターフェースの情報表示
showntp	NTP情報の表示
showpasswordpolicy	パスワードポリシーの設定表示
showpcl	PCLの表示
showpparmode	PPARの動作モード表示
showpparparam	OpenBoot PROM環境変数、ブートスクリプトの表示
showpparprogress	電源制御シーケンス中のPPAR詳細表示
showpparstatus	PPARの状態表示
showroute	ルーティング情報の表示
showssh	SSHサービスの内容表示
showstatus	縮退されたFRU表示
showtelnet	Telnetサービスの状態表示
showtimezone	XSCFのタイムゾーン表示
showuser	XSCFユーザーアカウント情報の表示
testsb	PSBの初期診断
version	ファームウェアの版数表示
who	XSCFログイン中のユーザーアカウント一覧表示

PSBの組み込み、割り当て

【コマンド】

addboard

※platadm権限が必要です。

※SPARC M12-1/M12-2/M10-1/M10-4 では使用できません。

【形式】

addboard [オプション] PSB番号

物理システムボード(PSB)を物理パーティション(PPAR)に組み込む、または割り当てます。

【オプション】

-c assign PSBをPPAR構成に割り当てます。
 -c configure PSBをPPAR構成に組み込みます。
 -c reserve 指定したPPARにPSBの組み込みを予約します。
 -p ppar_id PSBを組み込む、または割り当てるPPAR-IDを指定します。
 -v PSBの組み込み処理に対して、詳細な進捗状況を表示します。
 -y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【オペランド】

PSB番号 組み込む、または割り当てるPSB番号を指定します。
 スペースで区切って複数指定できます。

【使用例】

```
addboard -y -c assign -p 0 00-0 01-0 02-0 03-0
```

```
addboard -c configure -p 0 01-0
```

PPAR-ID 0に対して、PSB 00-0、01-0、02-0、03-0を割り当てます。

```
XSCF> addboard -y -c assign -p 0 00-0 01-0 02-0 03-0
PSB#00-0 will be assigned into PPAR-ID 0. Continue?[y/n] :y
PSB#01-0 will be assigned into PPAR-ID 0. Continue?[y/n] :y
PSB#02-0 will be assigned into PPAR-ID 0. Continue?[y/n] :y
PSB#03-0 will be assigned into PPAR-ID 0. Continue?[y/n] :y
```

SPARC M10-4Sで、PPAR-ID 0に対してPSB 01-0を組み込みます。

```
XSCF> addboard -c configure -p 0 01-0
PSB#01-0 will be configured into PPAR-ID 0. Continue?[y/n] :y
Start connecting PSB to PPAR. [3600sec]
 0.....30.....60.....90.....120.....150.....180.....210.....end
Connected PSB to PPAR.
Start configuring PSB to Logical Domains (LDoms) Manager. [1800sec]
 0.....30.....60.....90.....120end
Configured PSB to Logical Domains (LDoms) Manager.
Operation has completed
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

CPUコア アクティベーションキーの追加

【コマンド】

addcodactivation

※platadm権限が必要です。

【形式】

addcodactivation [オプション] キー番号

CPU コア アクティベーションキーをSPARC M12/M10システムに追加します。

【オプション】

-y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【オペランド】

key_signature 追加するCPU コア アクティベーションキーを指定します。
 二重引用符(“) で囲んで指定します。

【使用例】

addcodactivation "Product: SPARC M12-1

SPARC M12-1で、コピーしたCPU コア アクティベーションキーを追加します。

```
XSCF> addcodactivation "Product: SPARC M12-1
SequenceNumber: 116
Cpu noExpiration 2
Text-Signature-SHA256-RSA2048:
SBxYBSmB32E1ctOidgWV09nGFnWKNtCJ5N3WSlowbRUYIVVySvjncfOrDNteFLzo
:
:
1TSgrjnee9FyEYITT+ddJQ=="
Above Key will be added, Continue?[y|n]: y
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFユーザーアカウントの作成

【コマンド】

adduser
※useradm権限が必要です。

【形式】

adduser [オプション] ユーザー名
新しいXSCFユーザーアカウントを作成します。

【オプション】

-u UID 指定された識別子 (UID) で新しいユーザーを作成します。

【オペランド】

user 作成するXSCFユーザーアカウント名を指定します。

【使用例】

```
adduser -u 359 user01
```

新しいユーザーを作成します。

```
XSCF> adduser -u 359 user01
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFネットワーク設定の適用

【コマンド】

applynetwork

※platadm権限が必要です。

【形式】

applynetwork [オプション]

XSCFネットワークの内容をXSCFに適用します。

【オプション】

-y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

applynetwork -y

SPARC M12-1で、XSCF ネットワークの設定を適用します。プロンプトには自動的に「y」と応答します。

```
XSCF> applynetwork -y
The following network settings will be applied:
bb#00 hostname      :m12-1
DNS domain name    :fujitsu.co.jp

interface          :bb#00-lan#0
status             :up
IP address         :192.168.0.100
netmask            :255.255.255.0
route              :-n 0.0.0.0 -m 255.255.255.0 -g 192.168.0.1

interface          :bb#00-lan#1
status             :down
IP address         :
netmask            :
route              :
```

Continue? [y|n] :y
Please reset the all XSCFs by rebootxscf to apply the network settings.
Please confirm that the settings have been applied by executing
showhostname, shownetwork, showroute, showsscp and shownameserver after
rebooting the all XSCFs.

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

制御ドメインコンソールに接続

【コマンド】

console

※platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

console [オプション]

指定した物理パーティション(PPAR)の制御ドメインコンソールに接続します。

【オプション】

- f 強制的にRWコンソールに接続します。
- p ppar_id 接続するPPAR-IDを指定します。
- r ROコンソールに接続します。
- y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

console -p 0 -y

PPAR-ID 0 のRW コンソールに接続します。プロンプトには自動的に「y」と応答します。

```
XSCF> console -p 0 -y
```

```
Console contents may be logged.  
Connect to PPAR-ID 0?[y/n] :y
```

PPAR-ID 0 のRW コンソールに強制的に接続します。プロンプトには自動的に「y」と応答します。

```
XSCF> console -p 0 -y -f
```

```
Console contents may be logged.  
Connect to PPAR-ID 0?[y/n] :y
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PSBの切り離し

【コマンド】

deleteboard
 ※platadm権限が必要です。
 ※SPARC M12-1/M12-2/M10-1/M10-4 では使用できません。

【形式】

deleteboard [オプション] PSB番号
 物理システムボード(PSB) を物理パーティション(PPAR)構成から切り離します。

【オプション】

-c disconnect PSBをPPAR構成から切り離して、割り当て状態にします。
 -c reserve PSBの切り離しを予約します。
 -c unassign PSBをPPAR構成から完全に切り離して、システムボードプールにします。
 -v PSBの切り離し処理に対して、詳細な進捗状況を表示します。
 -y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【オペランド】

PSB番号 切り離すPSB番号を指定します。スペースで区切って複数指定できます。

【使用例】

```
deleteboard -c unassign 00-0 01-0 02-0 03-0
deleteboard -c reserve 00-0 01-0 02-0 03-0
deleteboard -c unassign 01-0
```

PSB 00-0、01-0、02-0、03-0をシステムボードプールにします。(PPARが電源切断状態の場合)

```
XSCF> deleteboard -c unassign 00-0 01-0 02-0 03-0
PSB#00-0 will be unassigned from PPAR immediately. Continue?[y|n] :y
PSB#01-0 will be unassigned from PPAR immediately. Continue?[y|n] :y
PSB#02-0 will be unassigned from PPAR immediately. Continue?[y|n] :y
PSB#03-0 will be unassigned from PPAR immediately. Continue?[y|n] :y
```

PSB 00-0、01-0、02-0、03-0の切り離しを予約します。

```
XSCF> deleteboard -c reserve 00-0 01-0 02-0 03-0
PSB#00-0 will be unassigned from PPAR after the PPAR restarts.
Continue?[y|n] :y
PSB#00-0 will be unassigned from PPAR after the PPAR restarts.
Continue?[y|n] :y
PSB#00-0 will be unassigned from PPAR after the PPAR restarts.
Continue?[y|n] :y
PSB#00-0 will be unassigned from PPAR after the PPAR restarts.
Continue?[y|n] :y
```

SPARC M10-4Sで、PSB 01-0をシステムボードプールにします。(PPARが電源投入状態の場合)

```
XSCF> deleteboard -c unassign 01-0
PSB#01-0 will be unassigned from PPAR immediately. Continue?[y|n] :y
Start unconfigure preparation of PSB. [1200sec]
0.....30.....60.....90.....120end
Unconfigure preparation of PSB has completed.
Start unconfiguring PSB from PPAR. [7200sec]
0.....30.....60.....90.....120end
Unconfigured PSB from PPAR.
PSB power off sequence started. [1200sec]
0.....30.....60.....90.....120end
Operation has completed
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

CPUコア アクティベーションキーの削除

【コマンド】

deletecodactivation

※platadm権限が必要です。

【形式】

deletecodactivation [オプション] キー管理番号

CPU コア アクティベーションキーをSPARC M12/M10システムから削除します。

【オプション】

-i key-index

削除するCPUコア アクティベーションキーの管理番号を指定します。

-y

プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

deletecodactivation -i 10

SPARC M12-1で、コピーしたCPU コア アクティベーションキーを追加します。

```
XSCF> deletecodactivation -i 10
```

```
Above Key will be deleted, Continue?[y|n]:y
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFユーザーアカウントの削除

【コマンド】

deleteuser

※useradm権限が必要です。

【形式】

deleteuser ユーザー名

XSCFユーザーアカウントを削除します。

【オペランド】

user 削除するXSCFユーザーアカウントを指定します。

【使用例】

deleteuser user01

XSCFユーザーアカウントを削除します。

```
XSCF> deleteuser user01
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFシェルの終了

【コマンド】

exit

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

exit

XSCF シェルを終了して閉じます。

【使用例】

exit

XSCF シェルを終了して閉じます。

```
XSCF> exit
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFコマンドのマニュアル表示

【コマンド】

man

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

man コマンド名

XSCFシェルコマンドのマニュアルページを表示します。

【オペランド】

command_name

マニュアルページを表示するコマンドを指定します。
スペースで区切って複数指定できます。

【使用例】

man adduser

adduserのマニュアルページを表示します。

```
XSCF> man adduser
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ホスト名の照会

【コマンド】

nslookup

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

nslookup ホスト名

ホスト名をインターネットネームサーバに照会します。

【オペランド】

hostname

ネットワークインターフェースに設定されているホスト名を指定します。

【使用例】

nslookup scf0-hostname0

adduserのマニュアルページを表示します。

```
XSCF> nslookup scf0-hostname0
Server: server.example.com
Address: 192.168.1.100

Name: scf0-hostname0.example.com
Address: 192.168.1.101
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFユーザーアカウントのパスワード設定

【コマンド】

password

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

password [オプション] ユーザー名

XSCFユーザーアカウントのパスワードを設定します。

【オペランド】

user XSCFユーザーアカウント名を指定します。

【使用例】

password user01

user01のパスワードを設定します。

```
XSCF> password user01
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ICMPのECHO_REQUESTパケット送信

【コマンド】

ping
※hostに「localhost」、ループバックアドレス「127.0.0.0/8」、SSCPリンクのインターフェースを指定するには、fieldeng権限が必要です。
※上記以外には、必要な権限はありません。

【形式】

ping [オプション] ホスト名
ICMPのECHO_REQUESTパケットをネットワーク上のホストへ送信します。

【オプション】

-c count パケットを送信する回数を指定します。

【オペランド】

host パケットを送信するホスト名またはIPアドレスを指定します。

【使用例】

ping -c 3 scf0-hostname0
ping -c 3 192.168.1.100

scf0-hostname0というホスト名にパケットを3回送信します。

```
XSCF> ping -c 3 scf0-hostname0
PING scf0-hostname0 (192.168.1.100): 56 data bytes
64 bytes from 192.168.1.100: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.1 ms
64 bytes from 192.168.1.100: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.1 ms
64 bytes from 192.168.1.100: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.1 ms

--- scf0-hostname0 ping statistics ---
3 packets transmitted, 3 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 0.1/0.1/0.1 ms
```

192.168.1.100というIPアドレスにパケットを3回送信します。

```
XSCF> ping -c 3 192.168.1.100
PING 192.168.1.100 (192.168.1.100): 56 data bytes
64 bytes from 192.168.1.100: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.1 ms
64 bytes from 192.168.1.100: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.1 ms
64 bytes from 192.168.1.100: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.1 ms

--- 192.168.1.100 ping statistics ---
3 packets transmitted, 3 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 0.1/0.1/0.1 ms
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PPARの停止

【コマンド】

poweroff

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

poweroff [オプション]

物理パーティション(PPAR)を停止します。

【オプション】

-a 起動しているすべてのPPARを停止します。
-f XSCFによって指定したPPARを強制的に停止します。
※-p オプションと一緒に使用します。
-p ppar_id 停止する物理パーティションのPPAR-IDを指定します。
-y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

poweroff -p 0 -y
poweroff -f -p 0

PPAR-ID 0を停止します。プロンプトには自動的に「y」と応答します。

```
XSCF> poweroff -p 0 -y  
PPAR-IDs to power off:00  
Continue? [y|n]:y  
00:Powering off
```

Note
This command only issues the instruction to power-off.
The result of the instruction can be checked by the "showpparprogress".

PPAR-ID 0を強制的に停止します。

```
XSCF> poweroff -f -p 0  
PPAR-IDs to power off:00  
The -f option will cause domains to be immediately resets.  
Continue? [y|n]:y  
00:Powering off
```

Note
This command only issues the instruction to power-off.
The result of the instruction can be checked by the "showpparprogress".

[\[XSCFコマンド一覧\]に戻る](#)

PPARの起動

【コマンド】

poweron

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

poweron [オプション]

物理パーティション (PPAR) を起動します。

【オプション】

-a

セットアップが完了している、すべてのPPARを起動します。

-p ppar_id

起動する物理パーティションのPPAR-IDを指定します。

-y

プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

poweron -p 0 -y

PPAR-ID 0を起動します。プロンプトには自動的に「y」と応答します。

```
XSCF> poweron -p 0 -y
PPAR-IDs to power on:00
Continue? [y|n]:y
00:Powering on
```

Note

This command only issues the instruction to power-on.

The result of the instruction can be checked by the "showpparprogress".

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFの再起動

【コマンド】

rebootxscf

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

rebootxscf [オプション] BB ID

XSCFを再起動します。

【オプション】

- a 全てのSPARC M12/M10 システムの筐体、クロスバーボックスのXSCFを再起動します。
※マスタXSCF以外からは実行できません。
- b bb_id 指定したbb_id のXSCF を再起動します。
※マスタXSCF以外からは実行できません。
- y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

rebootxscf -a

rebootxscf -y -a

全てのSPARC M12/M10 システムの筐体、クロスバーボックスのXSCFを再起動します。

```
XSCF> rebootxscf -a
The XSCF will be reset. Continue? [y/n]:y
```

全てのSPARC M12/M10 システムの筐体、クロスバーボックスのXSCFを再起動します。

プロンプトには自動的に「y」と応答します。

```
XSCF> rebootxscf -y -a
The XSCF will be reset. Continue? [y/n]:y
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PPAR、論理ドメインのリセット

【コマンド】

reset
 ※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

reset [オプション] ppar_id
 物理パーティション (PPAR) または論理ドメインをリセットします。

【オプション】

-g domainname リセットする論理ドメインの論理ドメイン名を指定します。
 -p ppar_id リセットするPPAR-IDを1つだけ指定します。
 -y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【オペランド】

por PPARをリセットします。
 sir 論理ドメインをリセットします。
 panic 論理ドメインのOracle Solarisにパニックを指示します。
 xir PPAR内のすべてのCPUをリセットします。

【使用例】

reset -p 0 -g GuestDomain0001 sir
 reset -y -p 0 xir
 reset -q -y -p 0 por

PPAR-ID 0の論理ドメインであるGuestDomain0001をリセットします。

```
XSCF> reset -p 0 -g GuestDomain0001 sir
PPAR-ID:00
GuestDomain to sir:GuestDomain0001
Be sure to execute "ldm add-sponconfig" before using this command when you
have changed the ldm configuration.
Otherwise, an unexpected domain might be reset.
Continue? [y|n]:y
00 GuestDomain0001 :Resetting

*Note*
This command only issues the instruction to reset.
The result of the instruction can be checked by the "showdomainstatus".
XSCF>
```

PPAR-ID 0のCPUをリセットします。プロンプトには自動的に「y」と応答します。

```
XSCF> reset -y -p 0 xir
PPAR-ID to reset:00
Continue? [y|n]:y
00 :Resetting

*Note*
This command only issues the instruction to reset.
The result of the instruction can be checked by the "showpparprogress".
XSCF>
```

PPAR-ID 0をリセットします。
 メッセージは非表示にして、プロンプトには自動的に「y」と応答します。

```
XSCF> reset -q -y -p 0 por
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

CPUコア アクティベーションキーの復元

【コマンド】

restorecodactivation

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

システムにあらかじめ用意されているdefaultアカウントでも実行できます。

【形式】

restorecodactivation [オプション] URL

CPU コア アクティベーションキーをSPARC M12/M10 システムに追加します。

【オプション】

-v 詳細な情報を表示します。サーバの問題を診断する場合に使用します。
-V 詳細なネットワークアクティビティを表示します。
ネットワークやサーバの問題を診断する場合に使用します。
-y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【オペランド】

url CPUコア アクティベーションキーが保存されているURLを指定します。
ファイルは絶対パスで指定します。

【使用例】

restorecodactivation -v -V file:///media/usb_msd/cpukey.cfg

USBデバイスに保存されたCPUコア アクティベーションキーを復元します。

```
XSCF> restorecodactivation -v -V file:///media/usb_msd/cpukey.cfg
initiating file transfer from 'file:///media/usb_msd/cpukey.cfg' ...
transfer from
'file:///media/usb_msd/cpukey.cfg' to '/ssd/transferred_file_cod.bin'
* Closing connection #0
done.
*** The CPU core Activation keys are overwritten in the backup data.
*** Do you want to restore this keys to your system? [y|n]:y
operation completed
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

設定情報を工場出荷時に戻す

【コマンド】

restoredefaults

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

※XSCFには、XSCF-LANではなくシリアルで接続する必要があります。

【形式】

restoredefaults [オプション]

XSCF搭載ユニットの設定情報やそのバックアップ情報を工場出荷時の状態に戻します。

【オプション】

-c factory

システム全体を工場出荷時の状態に戻します。

-c xscf

XSCF搭載ユニットの設定情報を工場出荷時の状態に戻すとともに、CPUコア アクティベーションキーを削除します。

-r activation

CPUコア アクティベーションキーを削除します。

※-c xscf オプションを指定する場合は、指定できません。

【使用例】

restoredefaults -c xscf

restoredefaults -c factory -r activation

restoredefaults -c factory

XSCF搭載ユニットの設定情報を工場出荷時の状態に戻すとともに、CPUコア アクティベーションキーを削除します。

```
XSCF> restoredefaults -c xscf
```

WARNING:

If this system does not have BACK UP, this command will set all the user settable XSCF configuration parameters to their default value as they were set when the system was shipped out. Furthermore, this command will delete all logs in the intended chassis XSCF. Check the man page of this command before you run it.

NOTE:

The CPU core Activation keys will be also removed.

Continue?[yes/no](default no):yes

You must check the following points.

1. Have the ability to power cycle the system.
2. Have access to the serial console and hold the serial console of the XSCF to confirm the completion of the command.

If you answer "yes" this command will HALT the XSCF when it completes. You will need to power cycle the system after the XSCF BOOT STOP.

Do you really want to continue?

Continue?[yes/no](default no):yes

The initialization of XSCF will be started.

XSCF : all data clear

(Including CPU core Activation keys)

BACK UP : not clear

XSCF will be automatically rebooted. Afterwards, XSCF will be initialized.

Continue?[yes/no](default no):yes

CoD initialization complete.

Syncing file systems... complete

Setting FRUID-ROM to writable complete

Clear BB-ID complete

XSCF shutdown request was completed.

<snip>...XSCF reboot..<snip>

XSCF clear : start

<snip>

XSCF clear : complete

Please turn off the breaker after XSCF halt.

【続く】

【続き】

システム全体を工場出荷時の状態に戻すとともに、CPUコア アクティベーションキーを削除します。

```
XSCF> restoredefaults -c factory -r activation

WARNING:
If this system does not have BACK UP, this command will set all the user
settable XSCF configuration parameters to their default value as they
were set when the system was shipped out.
Furthermore, this command will delete all logs in the intended chassis XSCF.
Check the man page of this command before you run it.

NOTE:
The CPU core Activation keys will be also removed.

Continue?[yes/no](default no):yes
You must check the following points.
1. Have the ability to power cycle the system.
2. Have access to the serial console and hold the serial console of the
XSCF to confirm the completion of the command.

If you answer "yes" this command will HALT the XSCF when it completes.
You will need to power cycle the system after the XSCF BOOT STOP.

Do you really want to continue?

Continue?[yes/no](default no):yes
The initialization of XSCF will be started.
XSCF : all data clear (exclude SYSTEM ID data)
(Including CPU core Activation keys)
BACK UP : all data clear (exclude SYSTEM ID data)
(Including CPU core Activation keys)
XSCF will be automatically rebooted. Afterwards, XSCF will be initialized.
Continue?[yes/no](default no):yes
Disabling IDIAG prompt complete
Setting FRUID-ROM to writable complete
Clear BB-ID complete
CoD initialization complete.
Backup common DB complete
XSCF shutdown request was completed.

<snip>...XSCF reboot..<snip>

XSCF clear : start

<snip>

XSCF clear : complete

Please turn off the breaker after XSCF halt.
```

【続く】

【続き】

システム全体を工場出荷時の状態に戻します。このとき、CPUコア アクティベーションキーは削除しません。

```
XSCF> restoredefaults -c factory
```

WARNING:

If this system does not have BACK UP, this command will set all the user settable XSCF configuration parameters to their default value as they were set when the system was shipped out.
Furthermore, this command will delete all logs in the intended chassis XSCF.
Check the man page of this command before you run it.

```
Continue?[yes/no](default no):yes
```

You must check the following points.

1. Have the ability to power cycle the system.
2. Have access to the serial console and hold the serial console of the XSCF to confirm the completion of the command.

If you answer "yes" this command will HALT the XSCF when it completes.
You will need to power cycle the system after the XSCF BOOT STOP.

Do you really want to continue?

```
Continue?[yes/no](default no):yes
```

The initialization of XSCF will be started.

XSCF : all data clear (exclude SYSTEM ID data)
BACK UP : all data clear (exclude SYSTEM ID data)

XSCF will be automatically rebooted. Afterwards, XSCF will be initialized.

```
Continue?[yes/no](default no):yes
```

Disabling IDIAG prompt complete
Setting FRUID-ROM to writable complete
Clear BB-ID complete
Backup common DB complete
XSCF shutdown request was completed.

<snip>...XSCF reboot..<snip>

XSCF clear : start

<snip>

XSCF clear : complete

Please turn off the breaker after XSCF halt.

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

CPUコアリソースの割り当て

【コマンド】

setcod
※platadm権限が必要です。

【形式】

setcod [オプション] 物理パーティション(PPAR)で使用するCPUコアリソースを割り当てます。

【オプション】

-c set PPARにCPUコアリソースを割り当てます。
-c add PPARへCPUコアリソースを追加します。
-c del PPARからCPUコアリソースを削除します。
-p ppar_id 設定対象のPPAR-IDを指定します。
-s cpu PPARにCPUコアリソースを割り当てます。
-y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【オペランド】

permits PPARに割り当てるCPUコア アクティベーションの数を指定します。
0以上の整数で、1コア単位で指定できます。

【使用例】

```
setcod -p 0 -s cpu -c set 30
setcod -p 0 -s cpu -c add 2
setcod -p 0 -s cpu -c del 2
```

PPAR-ID 0に割り当てるCPUコア アクティベーションの数を30に設定します。

```
XSCF> setcod -p 0 -s cpu -c set 30
PROC Permits assigned for PPAR 0 : 0 -> 30
```

```
PROC Permits assigned for PPAR will be changed.
Continue? [y/n] :y
```

Completed.

PPAR-ID 0に割り当てるCPUコア アクティベーションの数を2つ追加します。

```
XSCF> setcod -p 0 -s cpu -c add 2
PROC Permits assigned for PPAR 0 : 30 -> 32
```

```
PROC Permits assigned for PPAR will be changed.
Continue? [y/n] :y
```

Completed.

PPAR-ID 0に割り当てるCPUコア アクティベーションの数を2つ削除します。

```
XSCF> setcod -p 0 -s cpu -c del 2
PROC Permits assigned for PPAR 0 : 30 -> 28
```

```
PROC Permits assigned for PPAR will be changed.
Continue? [y/n] :y
```

Completed.

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFの時計の日付、時刻設定

【コマンド】

setdate

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

setdate [オプション]

XSCFの時計の日付、時刻を設定します。

【オプション】

-s *data*

日付、時刻を設定します。

-y

プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

```
setdate -y -s 102016592012.00
```

現在時刻をJSTで「2012年10月20日16時59分00秒」に設定します。プロンプトには自動的に「y」と応答します。
設定後はXSCFが再起動されます。

```
XSCF> setdate -y -s 102016592012.00
Sat Oct 20 16:59:00 JST 2012
The XSCF will be reset. Continue? [y/n] :y
Sat Oct 20 7:59:00 UTC 2012
XSCF>
(以降、リセット処理が継続されます。)
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PPAR起動時の論理ドメイン構成指定

【コマンド】

setdomainconfig

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

setdomainconfig [オプション]

物理パーティション(PPAR)起動時の論理ドメイン構成を指定します。

【オプション】

-c default 論理ドメイン構成を工場出荷時の状態(factory-default)に設定します。
 -i index 論理ドメイン構成指定の管理番号を指定します。
 -p ppar_id 論理ドメイン構成を設定するPPAR-IDを指定します。
 -y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

setdomainconfig -p 0

setdomainconfig -p 0 -i 1

setdomainconfig -y -p 0 -c default

PPAR-ID 0の論理ドメイン構成を「ldm-set1」に設定します。

```
XSCF> setdomainconfig -p 0
PPAR-ID      :0
Booting config
(Current)    :ldm-set2
(Next)      :ldm-set2

-----

Index        :1
config_name  :factory-default
domains      :1
date_created:-

-----

Index        :2
config_name  :ldm-set1
domains      :8
date_created:'2012-08-08 11:34:56'

-----

Select Index of Using config_name :2
PPAR-ID of PPARs that will be affected :00
Logical domain config_name will be set to "ldm-set1".
Continue? [y|n] :y
```

PPAR-ID 0の論理ドメイン構成を「ldm-set2」に設定します。

```
XSCF> setdomainconfig -p 0 -i 1
Index        :1
config_name  :ldm-set2
domains      :8
date_created:'2012-08-08 11:34:56'

-----

PPAR-ID of PPARs that will be affected:00
Logical domain config_name will be set to "ldm-set2".
Continue? [y|n] :y
```

PPAR-ID 0の論理ドメイン構成を工場出荷時の状態に設定します。プロンプトには自動的に「y」と応答します。

```
XSCF> setdomainconfig -y -p 0 -c default
PPAR-ID of PPARs that will be affected :00
Logical domain config_name will be set to "factory-default".
Continue? [y|n] :y
```

[「XSCFコマンド一覧II」に戻る](#)

ホスト名、DNSドメイン名の設定

【コマンド】

sethostname

※platadm権限が必要です。

【形式】

sethostname ホスト名

マスタ筐体／XSCFがスタンバイ状態の筐体に、ホスト名およびDNSドメイン名を設定します。

【オプション】

-d domainname

マスタ筐体／XSCFがスタンバイ状態の筐体に設定するDNSドメイン名を指定します。

【オペランド】

hostname

マスタ筐体／XSCFがスタンバイ状態の筐体に設定するホスト名を指定します。

xscfu

設定する筐体を指定します。
※省略した場合はエラーとなります。

【使用例】

sethostname bb#00 scf0-hostname

sethostname -d example.com

BB#00にscf0-hostnameというホスト名を設定します。

```
XSCF> sethostname bb#00 scf0-hostname
```

マスタ筐体／XSCFがスタンバイ状態の筐体にexample.comというDNSドメイン名を設定します。

```
XSCF> sethostname -d example.com
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

HTTPSサービスの開始／停止／認証関連の設定

【コマンド】

sethttps
※platadm権限が必要です。

【形式】

sethttps [オプション]
HTTPSサービスの開始／停止を設定します。
また、HTTPSサービスで使用する認証関連を設定します。

【オプション】

-c enable HTTPSサービスを開始します。
-c disable HTTPSサービスを停止します。
-y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

```
sethttps -c enable  
sethttps -c disable  
sethttps -c enable
```

HTTPSサービスを開始します。

```
XSCF> sethttps -c enable  
Continue? [y/n] y
```

HTTPSサービスを停止します。

```
XSCF> sethttps -c disable  
Continue? [y/n] y
```

enable実行時にウェブサーバ証明書が存在しない場合、自己認証局を作成後、自己署名したウェブサーバ証明書を作成し、HTTPSサービスを開始します。

```
XSCF> sethttps -c enable  
The web serverkey or web server certificate which has been signed by an  
external certification authority does not exist.  
Create self certification authority and web server certificate which has  
been self signed.  
Continue? [y/n] y
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

CPUコアの一時利用機能の有効／無効設定

【コマンド】

setinterimpermit
※platadm権限が必要です。

【形式】

setinterimpermit [オプション]
物理パーティション(PPAR)ごとにCPUコアの一時利用機能の有効／無効を設定します。

【オプション】

-c enable PPARへのCPUコアの一時利用機能を有効にする場合に指定します。
-c disable PPARへのCPUコアの一時利用機能を無効にする場合に指定します。
-p ppar_id 設定対象のPPAR-IDを指定します。
-y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

```
setinterimpermit -p 0 -c enable  
setinterimpermit -p 0 -c disable  
setinterimpermit -p 0 -c enable
```

PPAR-ID 0のCPUコアの一時利用機能を有効にします。

```
XSCF> setinterimpermit -p 0 -c enable
```

Note:

Please add CPU Activation(s) within 30 days of enabling the Interim Permit.

The Interim Permit for the PPAR will be changed to enabled.

Continue? [y|n] :y

Completed.

PPAR-ID 0のCPUコアの一時利用機能を無効にします。

```
XSCF> setinterimpermit -p 0 -c disable
```

The Interim Permit will be disabled.

Continue? [y|n] :y

Completed.

PPAR-ID 0のCPUコアの一時利用機能がすでに使用された状態で、再度、有効を設定した場合。

```
XSCF> setinterimpermit -p 0 -c enable
```

Note:

Please add CPU Activation(s) within 30 days of enabling the Interim Permit.

The Interim Permit for the PPAR will be changed to enabled.

Continue? [y|n] :y

The Interim Permit cannot be enabled because it has already been used once and cannot be enabled again (until more Purchased CPU Activations are installed and Purchased cores are assigned to the PPAR).

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

オペレーションパネルのCHECK LED点滅／点滅解除設定

【コマンド】

setlocator

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

setlocator [オプション] 値

オペレーションパネルのCHECK LEDの点滅／点滅解除を設定します。

【オプション】

-b bb_id

CHECK LEDの点滅状態を設定するSPARC M12/M10 システムの筐体またはクロスバーボックスを指定します。

【オペランド】

value

CHECK LED の状態を指定します。以下のどちらかを指定できます。

blink: CHECK LED を点滅させます。

reset: CHECK LED の点滅を解除します。

【使用例】

setlocator -b 1 blink

setlocator -b 80 reset

BB-ID 1のCHECK LEDを点滅させます。

```
XSCF> setlocator -b 1 blink
```

BB-ID 80のCHECK LEDの点滅を解除します。

```
XSCF> setlocator -b 80 reset
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

認証、ユーザー権限に関する参照先の設定

【コマンド】

setlookup

※useradm権限が必要です。

【形式】

setlookup [オプション]

認証とユーザー権限に関する参照先を設定します。

【オプション】

-a

認証の参照先を指定します。

-p

ユーザー権限の参照先を指定します。

【オペランド】

ldap

参照先にLDAPを含めます。

※-aオプションまたは-pオプションと一緒に指定します。

local

参照先をXSCFとします。

※-aオプションまたは-pオプションと一緒に指定します。

【使用例】

```
setlookup -p ldap
```

ユーザー権限の参照先をLDAPに設定します。

```
XSCF> setlookup -p ldap
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ネームサーバ、サーチパスの設定／削除

【コマンド】

setnameserver
※platadm権限が必要です。

【形式】

setnameserver [オプション]
XSCFネットワークでのサーチパスを設定／削除します。

【オプション】

-c add	ネームサーバを登録します。 -cを省略した場合は-c addが指定されたとみなされます。 ※addressと一緒に指定します。
-c addsearch	サーチパスを登録します。 ※domainnameと一緒に指定します。
-c del	ネームサーバを削除します。
-c delsearch	サーチパスを削除します。

【オペランド】

address	登録または削除するネームサーバのIPアドレスを指定します。
domainname	登録または削除するサーチパスのドメイン名を指定します。

【使用例】

```
setnameserver 192.168.0.2
setnameserver -c addsearch example1.com
setnameserver -c del 10.18.108.10
setnameserver -c delsearch example1.com
```

IPアドレス192.168.0.2のホストをネームサーバとして登録します。

```
XSCF> setnameserver 192.168.0.2
```

ドメイン名example1.comをサーチパスに登録します。

```
XSCF> setnameserver -c addsearch example1.com
```

IPアドレス10.18.108.10をネームサーバから削除します。

```
XSCF> setnameserver -c del 10.18.108.10
```

ドメイン名example1.comをサーチパスから削除します。

```
XSCF> setnameserver -c delsearch example1.com
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ネットワークインターフェースの設定／削除

【コマンド】

setnetwork
 ※platadm権限が必要です。

【形式】

setnetwork [オプション] interface
 XSCFネットワークで使用されるネットワークインターフェースを設定／削除します。

【オプション】

-c up ネットワークインターフェースを有効にします。
 -c down ネットワークインターフェースを無効にします。
 -m addr ネットマスクを指定します。
 -r ネットワークインターフェースの、IPアドレスおよびネットマスクを削除します。
 -y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【オペランド】

address IPアドレスを指定します。
 interface 設定するネットワークインターフェースを指定します。

【使用例】

```
setnetwork bb#00-lan#0 -m 255.255.255.0 192.168.0.100
setnetwork bb#00-lan#0 -c down
setnetwork -r xbbox#80-lan#0
```

BB#00のLAN#0にIPアドレス192.168.0.100、ネットマスク255.255.255.0を設定します。

```
XSCF> setnetwork bb#00-lan#0 -m 255.255.255.0 192.168.0.100
```

BB#00のLAN#0を無効にします。

```
XSCF> setnetwork bb#00-lan#0 -c down
```

XBBOX#80のLAN#0に設定されたIPアドレス、ネットマスクを削除します。

```
XSCF> setnetwork -r xbbox#80-lan#0
You specified '-r' interface remove option.
So, we delete routing information that interface corresponds.
Continue? [y|n] :y
If you choose 'yes', you must execute 'applynetwork' command for
application.
Or you choose 'yes', but you don't want to apply, you execute 'rebootxscf'
for reboot.
```

[\[XSCFコマンド一覧IIに戻る\]](#)

XSCFの時刻同期設定

【コマンド】

setntp
※platadm権限が必要です。

【形式】

setntp [オプション]

XSCFの時刻同期に関する設定を行います。

【オプション】

-c add 上位NTPサーバに追加します。
-cを省略した場合は-c addが指定されたとみなされます。
※addressと一緒に指定します。

-c del 上位NTPサーバを削除します。
※addressと一緒に指定します。

-c disable XSCFのNTPサーバとして設定を無効にします。
※-sと一緒に指定します。

-c enable XSCFのNTPサーバとして設定を有効にします。
※-sと一緒に指定します。

-c stratum XSCFをNTPサーバとした場合の、stratum値を設定します。

-i stratum_no stratum値を指定します。
※-c stratumと一緒に指定します。

-s server XSCFのNTPサーバとしてのサービスを使用するかどうかを設定します。
※-c disableまたは-c enableと一緒に指定します。

-s client XSCFをNTPクライアントとして、上位NTPサーバと同期するかどうかを設定します。
※-c disableまたは-c enableと一緒に指定します。

【オペランド】

address 追加または削除するNTPサーバの、IPアドレスまたはホスト名を指定します。

【使用例】

```
setntp 192.168.1.2 10.18.108.10 10.24.1.2
setntp -c del 10.18.108.10
setntp ntp1.example.com ntp2.example.com
setntp -c stratum -i 5
setntp -s client -c enable
setntp -s server -c enable
```

上位NTPサーバとして、3つのNTPサーバ192.168.1.2、10.18.108.10、10.24.1.2を登録します。

```
XSCF> setntp 192.168.1.2 10.18.108.10 10.24.1.2
Please reset the XSCF by rebootxscf to apply the ntp settings.
```

上位NTPサーバに設定されているNTPサーバ10.18.108.10を削除します。

```
XSCF> setntp -c del 10.18.108.10
Please reset the XSCF by rebootxscf to apply the ntp settings.
```

2つのNTPサーバntp1.example.com、ntp2.example.comを登録します。

```
XSCF> setntp ntp1.example.com ntp2.example.com
Please reset the XSCF by rebootxscf to apply the ntp settings.
```

XSCFネットワークで使用されるstratum値を5に設定します。

```
XSCF> setntp -c stratum -i 5
Please reset the XSCF by rebootxscf to apply the ntp settings.
```

XSCFをNTPクライアントに設定し、上位NTPサーバと同期させるように設定します。

```
XSCF> setntp -s client -c enable
Please reset the XSCF by rebootxscf to apply the ntp settings.
```

XSCFをNTPサーバに設定し、他のクライアントにNTPサービスを提供するように設定します。

```
XSCF> setntp -s server -c enable
Please reset the XSCF by rebootxscf to apply the ntp settings.
```

[\[XSCFコマンド一覧IIに戻る\]](#)

パスワードポリシーの管理

【コマンド】

setpasswordpolicy

※useradm権限が必要です。

【形式】

setpasswordpolicy [オプション]

システムのパスワードポリシーを管理します。

【オプション】

-e expiry

新しいアカウントの有効期限が切れて無効になるまでの日数を設定します。

-i inactive

パスワードの有効期限が切れてからアカウントがロックされるまでの日数を設定します。

-k difok

新しいパスワードの中に、新しい文字(古いパスワードに含まれていなかった文字)が何文字以上含まれている必要があるかを設定します。

-M maxdays

パスワードが有効である最大日数を設定します。

-m minlen

最小許容パスワード長を設定します。

-w warn

ユーザーにパスワードの有効期限の警告を発してから実際に有効期限が切れるまでのデフォルトの日数を設定します。

【使用例】

```
setpasswordpolicy -m 6 -M 60 -w 15
```

6文字以上のパスワード、有効期限は60日間、期限切れ警告開始日は15日前に設定します。

```
XSCF> setpasswordpolicy -m 6 -M 60 -w 15
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PCLの設定

【コマンド】

setpcl
※platadm権限が必要です。
※SPARC M12-1/M12-2/M10-1/M10-4 ではpolicyだけ設定できます。

【形式】

setpcl オプション LSB番号
物理パーティション (PPAR) 構成情報 (PCL) を設定します。
PCLとは、PPARやPPARを構成する論理システムボード (LSB) に設定できるハードウェアリソース情報です。

【オプション】

-a lsb=psb PPARのLSB番号に対応させるPSB番号を指定します。
※SPARC M12-1/M12-2/M10-1/M10-4では指定できません。
-p ppar_id 設定するPPAR-IDを指定します。
-r 指定したPPARのLSB番号に対応するPSB番号を消去します。
※SPARC M12-1/M12-2/M10-1/M10-4では指定できません。
-s variable=value LSBへ対応させたPSBのハードウェアリソースに関して設定します。
※SPARC M12-1/M12-2/M10-1/M10-4ではvariableにpolicyだけ指定できます。

【オペランド】

LSB番号 設定するLSB番号を指定します。スペースで区切って複数指定できます。
※SPARC M12-1/M12-2/M10-1/M10-4では指定できません。

【使用例】

```
setpcl -p 0 -a 0=00-0 1=01-0  
setpcl -p 0 -s policy=system  
setpcl -p 0 -r 0 1
```

PPAR-ID 0のLSB 0にPSB 00-0、LSB 1にPSB 01-0を対応させます。

```
XSCF> setpcl -p 0 -a 0=00-0 1=01-0
```

PPAR-ID 0にpolicy=systemを設定します。

```
XSCF> setpcl -p 0 -s policy=system
```

PPAR-ID 0のLSB 0、1に対応しているPSBを削除します。

```
XSCF> setpcl -p 0 -r 0 1
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PPARの動作モード設定

【コマンド】

setpparmode

※fieldeng/platadm権限のいずれかが必要です。

【形式】

setpparmode [オプション] -p ppar_id -m function=mode
物理パーティション(PPAR)の動作モードを設定します。

【オプション】

-m function=mode 動作モードとその値を設定します。functionには動作モードを指定します。
-p ppar_id 動作モードを設定するPPAR-IDを指定します。
-y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

```
setpparmode -p 0 -m diag=off
setpparmode -y -p 0 -m guestboot=on
```

SPARC M12-2Sで、PPAR-ID 0の診断レベルを「なし」に設定します。

```
XSCF> setpparmode -p 0 -m diag=off
Diagnostic Level      :min      -> off
Message Level        :normal   -> -
Alive Check          :on        -> -
Watchdog Reaction    :reset    -> -
Break Signal         :on        -> -
Autoboot(Guest Domain) :on      -> -
Power Aware Dispatcher :on      -> -
Power Management Policy:disabled -> -
IOreconfigure        :true     -> -
CPU Mode             :-      -> -
PPAR DR              :off      -> -
The specified modes will be changed.
Continue? [y|n] :y
configured.
Diagnostic Level      :off
Message Level        :normal
Alive Check          :on (alive check:available)
Watchdog Reaction    :reset (watchdog reaction:reset)
Break Signal         :on (break signal:non-send)
Autoboot(Guest Domain) :on
Power Aware Dispatcher :on
Power Management Policy:disabled
IOreconfigure        :true
CPU Mode             :-
PPAR DR              :off
```

【続く】

【続き】

SPARC M12-2Sで、PPAR-ID 0のゲストメインのAuto boot機能を有効にします。
プロンプトには自動的に「y」と入力します。

```
XSCF> setpparmode -y -p 0 -m guestboot=on
Diagnostic Level      :off      -> -
Message Level        :normal   -> -
Alive Check          :on        -> -
Watchdog Reaction    :reset    -> -
Break Signal         :on        -> -
Autoboot (Guest Domain) :off      -> on
Power Aware Dispatcher :on       -> -
Power Management Policy:disabled-> -
IOreconfigure        :true     -> -
CPU Mode             :-       -> -
PPAR DR              :off      -> -
The specified modes will be changed.
Continue? [y|n]:y
configured.
Diagnostic Level      :off
Message Level        :normal
Alive Check          :on (alive check:available)
Watchdog Reaction    :reset (watchdog reaction:reset)
Break Signal         :on (break signal:non-send)
Autoboot (Guest Domain) :on
Power Aware Dispatcher :on
Power Management Policy:disabled
IOreconfigure        :true
CPU Mode             :-
PPAR DR              :off
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

OpenBoot PROM環境変数の強制書き換え、 ブートスクリプトの登録／削除

【コマンド】

setpparparam

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

setpparparam [オプション] PPAR ID

OpenBoot PROM環境変数の強制書き換えおよびブートスクリプトの登録／削除を行います。

【オプション】

-p ppar_id

対象となる制御ドメインのPPAR-IDを指定します。

-r

設定されているブートスクリプトを削除します。

-s bootscript

ブートスクリプトの登録／削除を行います。

【オペランド】

set-defaults

制御ドメインのOpenBoot PROM環境変数を工場出荷時の状態に戻します。

value

登録するブートスクリプトを指定します。

【使用例】

```
setpparparam -p 0 -s bootscript "setenv auto-boot? false"
```

```
setpparparam -p 0 set-defaults
```

PPAR-ID 0のブートスクリプト「auto-boot?」をfalseに設定します。

```
XSCF> setpparparam -p 0 -s bootscript "setenv auto-boot? false"
```

PPAR-ID of PPARs that will be affected:0

OpenBoot PROM variable bootscript will be changed.

Continue? [y|n] y

PPAR-ID 0のOpenBoot PROM環境変数を工場出荷時の状態に初期化します。

```
XSCF> setpparparam -p 0 set-defaults
```

PPAR-ID of PPARs that will be affected:0

All OpenBoot PROM variables will be reset to original default values.

Continue? [y|n] y

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ユーザー権限の割り当て

【コマンド】

setprivileges

※useradm権限が必要です。

【形式】

setprivileges ユーザー名 [ユーザー権限]

XSCFユーザーアカウントにユーザー権限を割り当てます。

【オペランド】

ユーザー権限

auditadm	システム全体に影響するユーザー権限を指定します。
auditop	すべての監査状態と監査トレールを表示／設定できます。
fieldeng	すべての監査状態と監査トレールを表示できます。
none	保守作業および当社技術員用に限定されているすべての操作を実行できます。
platadm	ユーザー権限を必要とするサービスプロセッサに関する操作を一切実行できません。
platop	useradm権限とauditadm権限で実行できる内容を除いた、すべてのXSCFの設定を実行できます。
useradm	プラットフォームのすべての状態を表示できますが、変更はできません。
	ユーザーアカウントの作成／削除／無効化／有効化ができます。
	ユーザーのパスワード／パスワードポリシー／ユーザー権限を変更できます。
	有効なユーザー名を指定します。

ユーザー名

【使用例】

```
setprivileges user01 platadm useradm
```

```
setprivileges user01 none
```

ユーザーアカウント(user01)にplatadm権限とuseradm権限を設定します。

```
XSCF> setprivileges user01 platadm useradm
```

ユーザーアカウント(user01) に設定されているすべての権限を削除します。

```
XSCF> setprivileges user01 none
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ルーティング情報の設定

【コマンド】

setroute
※platadm権限が必要です。

【形式】

setroute [オプション] interface
XSCFネットワークインターフェースのルーティング情報を設定します。

【オプション】

-c add ルーティング情報を追加します。
-c del ルーティング情報を削除します。
-g address ルーティングで使用されるゲートウェイアドレスを指定します。
-m address ルーティング情報の宛先となるネットマスクを指定します。
-n address ルーティング情報の宛先となるIPアドレスを指定します。

【オペランド】

interface 設定するネットワークインターフェースを指定します。

【使用例】

```
setroute -c add -n 192.168.0.0 -m 255.255.255.0 bb#00-lan#0  
setroute -c add -n 192.168.0.0 -g 192.168.0.1 bb#00-lan#0  
setroute -c del -n 192.168.0.0 -m 255.255.255.0 bb#00-lan#0
```

bb#00-lan#0に対して、宛先192.168.0.0、ネットマスク255.255.255.0としたルーティングを追加します。

```
XSCF> setroute -c add -n 192.168.0.0 -m 255.255.255.0 bb#00-lan#0
```

bb#00-lan#0に対して、宛先192.168.0.0、ゲートウェイ192.168.0.1としたルーティングを追加します。

```
XSCF> setroute -c add -n 192.168.0.0 -g 192.168.0.1 bb#00-lan#0
```

bb#00-lan#0に対して、宛先192.168.0.0、ネットマスク255.255.255.0としたルーティングを削除します。

```
XSCF> setroute -c del -n 192.168.0.0 -m 255.255.255.0 bb#00-lan#0
```

[\[XSCFコマンド一覧\]に戻る](#)

SSHサービスに関する設定

【コマンド】

setssh
 ※ユーザー名の指定には、useradm権限が必要です。

【形式】

setssh [オプション]
 XSCFネットワークに設定されているSecure Shell (SSH) サービスの内容を表示します。

【オプション】

-a 登録されているすべてのユーザー公開鍵を削除します。
 ※-c delpubkeyと一緒に指定します。
 -c addpubkey ユーザー公開鍵を登録します。
 -c delpubkey ユーザー公開鍵を削除します。
 -c genhostkey ホスト鍵を生成します。
 -c enable SSHサービスを開始します。
 -c disable SSHサービスを停止します。
 -u user_name ユーザー公開鍵を登録/削除するユーザーアカウント名を指定します。
 ※-c addpubkeyまたは-c delpubkeyと一緒に指定します。
 -y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

```
setssh -c enable
setssh -c disable
setssh -c genhostkey
setssh -c addpubkey
setssh -c addpubkey -u efgh
setssh -c delpubkey -a
```

SSHサービスを開始します。

```
XSCF> setssh -c enable
Continue? [y|n] .y
```

SSHサービスを停止します。

```
XSCF> setssh -c disable
Continue? [y|n] .y
```

ホスト鍵を生成します。

```
XSCF> setssh -c genhostkey
Host key create. Continue? [y|n] .y
```

ユーザー公開鍵を登録します。

公開鍵の入力は、[Enter]キーを押してから[Ctrl] + [D]キー (EOF)を押して終了します。

```
XSCF> setssh -c addpubkey
Please input a public key:
ssh-rsa AAAAB3NzaC1yc2EAAAABIwAAAIEAzFh95SohrDgpnN7zFCJCVNy+jaZPTjNDxcid
QGbiHYDCBttI4151Y0Sv85FJwDpSNHNKovLMLYJtBmUMPbGgGVB61qskSv/
FeV44hefNCZMiXGItIpk
P0nBK4XJpCFoFbPXNUHDw1rTD9icD5U/wRFGSRRxFI+Ub5oLRxN8+A8=
abcd@example.com
[Enter]
[Ctrl]+[D]
```

【続く】

【続き】

ユーザー名を指定してユーザー公開鍵を登録します。
公開鍵の入力は、[Enter]キーを押してから[Ctrl] + [D]キー (EOF)を押して終了します。

```
XSCF> setssh -c addpubkey -u efgh
Please input a public key:
ssh-rsa AAAAB3NzaC1yc2EAAAABIwAAAIEAzFh95SohrDgpnN7zFCJCVNy+jaZPTjNDxcid
QGbihYDCBttI4151Y0Sv85FJwDpSNHNKoVLMYLjtBmUMPbGgGVB61qskSv/
FeV44hefNCZMiXGItIlpK
P0nBK4XJpCFoFbPXNUHDw1rTD9icD5U/wRFGSRRxFI+Ub5oLRxN8+A8=
efgh@example.com
[Enter]
[Ctrl]+[D]
```

すべてのユーザー公開鍵を削除します。

```
XSCF> setssh -c delpubkey -a
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

Telnetサービスの開始／停止

【コマンド】

settnet
※platadm権限が必要です。

【形式】

settnet [オプション]
XSCFネットワークで使用するTelnetサービスを開始／停止します。

【オプション】

-c enable Telnetサービスを開始します。
-c disable Telnetサービスを停止します。

【使用例】

settnet -c enable
settnet -c disable

Telnetサービスを開始します。

```
XSCF> settnet -c enable  
Continue? [y/n] .y
```

Telnetサービスを停止します。

```
XSCF> settnet -c disable  
Continue? [y/n] .y
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFのタイムゾーン設定

【コマンド】

settimezone

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

settimezone [オプション]

XSCFのタイムゾーンを設定します。

【オプション】

- a 設定可能なタイムゾーンを一覧表示します。
※-c settzと一緒に指定します。
- c settz POSIX規格に準拠したタイムゾーンを設定します。
- s timezone タイムゾーンを指定します。
※-c settzと一緒に指定します。

【使用例】

settimezone -c settz -a

settimezone -c settz -s Asia/Tokyo

設定可能なタイムゾーンを一覧表示します。

```
XSCF> settimezone -c settz -a
Africa/Abidjan
Africa/Accra
Africa/Addis_Ababa
Africa/Algiers
Africa/Asmara
Africa/Asmera
Africa/Bamako
Africa/Bangui
.
```

タイムゾーンを「Asia/Tokyo」に設定します。

```
XSCF> settimezone -c settz -s Asia/Tokyo
Asia/Tokyo
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ハードウェアに関する設定

【コマンド】

setupfru
※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

setupfru [オプション] device location
デバイスのハードウェアに関する設定を行います。

【オプション】

-m y CPU配下のメモリをメモリミラーモードに設定します。
-m n CPU配下のメモリをメモリミラーモード解除に設定します。
-y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。
※SPARC M12-1/M12-2/M12-2Sのみ使用できます。

【オペランド】

device 設定するデバイスを指定します。
location デバイスの搭載されている位置を指定します。

【使用例】

setupfru -m y sb 01-0

PSB 01-0配下のすべてのCPUをメモリミラーモードに設定します。

```
XSCF> setupfru -m y sb 01-0
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PSBの情報表示

【コマンド】

showboards

※platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showboards [オプション] PSB番号

物理システムボード(PSB)の情報を表示します。

【オプション】

- a PPARに組み込まれている、または割り当てられているPSBや搭載されたすべてのPSBの状態を表示します。
- p ppar_id PSBの状態を表示するPPAR-IDを指定します。
指定したPPARのPCLに定義されている情報だけ表示されます。
- v PSBの詳細な情報を表示します。

【オペランド】

PSB番号 表示するPSB番号を指定します。

【使用例】

showboards -a

showboards -v -a

搭載されているすべてのPSBの情報を表示します。

```
XSCF> showboards -a
```

PSB	PPAR-ID (LSB)	Assignment	Pwr	Conn	Conf	Test	Fault
00-0	00(00)	Assigned	y	y	y	Passed	Normal
01-0	SP	Unavailable	n	n	n	Testing	Normal
02-0	Other	Assigned	y	y	n	Passed	Degraded
03-0	SP	Unavailable	n	n	n	Failed	Faulted

搭載されているすべてのPSBの詳細な情報を表示します。

```
XSCF> showboards -v -a
```

PSB	R	PPAR-ID (LSB)	Assignment	Pwr	Conn	Conf	Test	Fault
00-0	*	00(00)	Assigned	y	y	y	Passed	Normal
01-0		SP	Unavailable	n	n	n	Testing	Normal
02-0		Other	Assigned	y	y	n	Passed	Degraded
03-0		SP	Unavailable	n	n	n	Failed	Faulted

[\[XSCFコマンド一覧\]に戻る](#)

CPU コア アクティベーションの登録、設定情報表示

【コマンド】

showcod

※platadm/platop権限のいずれかが必要です。

【形式】

showcod [オプション]

CPUコア アクティベーションの登録および設定情報を表示します。

【オプション】

-p ppar_id

PPAR-IDを指定します。

-v

CPUコア アクティベーションの詳細な情報を表示します。

【使用例】

showcod

showcod -v

すべてのCPUコア アクティベーション情報を表示します。

```
XSCF> showcod
PROC Permits installed: 6 cores
PROC Permits assigned for PPAR 0: 6
```

すべてのCPUコア アクティベーション情報を詳細表示します。

```
XSCF> showcod -v
PROC Permits installed: 6 cores
PROC Permits assigned for PPAR 0: 6 [Permanent 6cores]
```

[\[XSCFコマンド一覧\]に戻る](#)

CPUコア アクティベーションキーの情報表示

【コマンド】

showcodactivation

※platadm/platop権限のいずれかが必要です。

【形式】

showcodactivation [オプション]

システムに追加したCPUコア アクティベーションキーの情報を表示します。

【オプション】

-i key-index

Key-indexに指定した管理番号のCPUコア アクティベーションキーの情報を表示します。

-r

CPUコア アクティベーションキーの情報を、XSCFに保存されているインデックス情報(管理番号)と共に表示します。

-v

CPUコア アクティベーションキーの詳細な情報を表示します。
情報は、表形式と生データ形式の両方が表示されます。

【使用例】

showcod

showcod -v

SPARC M12-1 で、CPUコア アクティベーションキーの情報を表示します。

```
XSCF> showcodactivation
Index  Description Count
-----
0 PROC          1
1 PROC          1
2 PROC          1
3 PROC          1
4 PROC          1
5 PROC          1
```

SPARC M12-1で、CPUコア アクティベーションキーの情報を詳細に表示します。

```
XSCF> showcodactivation -v
Index  Description Count
-----
0 PROC          1
Product : SPARC M12-1
SequenceNumber : 190
Cpu : noExpiration 1
Text-Signature-SHA256-RSA2048:
RTZ8dFGDhWBXdrSLTq8AKx5jGfHgOpo0qPMtyA7QgrxThkRDcuQyuIHaiNaRyjcF
:
:
h7m7+8uwbD/Pj3Rn8+qYyA==
-----
1 PROC          1
Product : : SPARC M12-1
SequenceNumber : 191
Cpu : noExpiration 1
Text-Signature-SHA256-RSA2048:
K+8jGKNMYqPAL2V7G4K/dWE+wNAXbsfOC//kRjifHnQVq87Skgr2CLseMKr fwutg
```

[\[XSCFコマンド一覧IIに戻る\]](#)

CPUコアリソースの使用情報表示

【コマンド】

showcodusage

※platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showcodusage [オプション]

CPUコアリソースの使用情報を表示します。

【使用例】

showcodusage

SPARC M12-1で、CPUコア アクティベーションキーの情報を表示します。

```
XSCF>
Resource In Use Installed CoD Permitted Status
-----
PROC          6          6          6 OK: 0 cores available
PPAR-ID/Resource In Use Installed Assigned
-----
0 - PROC          6          6          6 cores
Unused - PROC     0          0          0 cores

Note:
Please confirm the value of the "In Use" by the ldm command of Oracle VM
Server for SPARC.

The XSCF may take up to 20 minutes to reflect the "In Use" of logical domains.
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFの時計の日付、時刻表示

【コマンド】

showdate

※useradm/platadm/platop/auditadm/auditop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showdate [オプション]

XSCFの時計の日付、時刻を表示します。

【使用例】

showdate

現在の時刻を地方時(JST)で表示します。

```
XSCF> showdate  
Fri Jul 27 11:23:37 JST 2018
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PPARの論理ドメイン構成情報表示

【コマンド】

showdomainconfig

※useradm/platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showdomainconfig [オプション]

指定した物理パーティション(PPAR)の論理ドメイン構成情報を表示します。

【オプション】

-p ppar_id 論理ドメイン構成情報を表示するPPAR-IDを指定します。

【使用例】

showdomainconfig -p 0

PPAR-ID 0に設定されている論理ドメイン構成情報を表示します。

```
XSCF> showdomainconfig -p 0
PPAR-ID      :0
Booting config
(Current)    :ldm-set1
(Next)       :ldm-set2
-----
Index        :1
config_name  :factory-default
domains      :1
date_created :--
-----
Index        :2
config_name  :ldm-set1
domains      :8
date_created :'2012-08-08 11:34:56'
-----
Index        :3
config_name  :ldm-set2
domains      :20
date_created :'2012-08-09 12:43:56'
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

論理ドメインの状態表示

【コマンド】

showdomainstatus

※useradm/platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showdomainstatus [オプション]

現在の論理ドメインの状態を表示します。

【オプション】

-g domainname

表示対象の論理ドメインのホスト名を指定します。

※記号を含める場合は、値全体を一重引用符(')または二重引用符(")で囲んで指定します。

-p ppar_id

状態を表示するPPAR-IDを指定します。

-v

詳細情報を表示します。論理ドメインのID (16進数表記)も表示されます。

【使用例】

showdomainstatus -p 0

showdomainstatus -p 0 -v -g guest01

PPAR-ID 0上のすべての論理ドメインの状態を表示します。

```
XSCF> showdomainstatus -p 0
Logical Domain Name  Status
primary Solaris      running
guest00 Solaris      running
guest01 Solaris      booting
guest02 Solaris      powering down
guest03 Solaris      panicking
guest04              Shutdown Started
guest05              OpenBoot initializing
guest06              OpenBoot Primary Boot Loader
```

PPPAR-ID 0上の論理ドメイン名guest01の詳細情報を表示します。

```
XSCF> showdomainstatus -p 0 -v -g guest01
GID      Logical Domain Name Status
00000002 guest01              Solaris powering down
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

吸気温度／温度／電圧／ファン回転／消費電力／排気量の表示

【コマンド】

showenvironment

※useradm/platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showenvironment

システムの吸気温度／温度／電圧／ファン回転／消費電力／排気量の情報を表示します。

【オペランド】

temp

温度情報を表示します。

volt

電圧情報を表示します。

FAN

ファンの回転情報を表示します。

power

消費電力情報を表示します。

air

SPARC M12/M10 システムの筐体の排気量を表示します。

【使用例】

showenvironment

システムの吸気温度を表示します。

```
XSCF> showenvironment
Temperature:29.50C
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

FRUの情報表示

【コマンド】

showhardconf

※useradm/platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showhardconf [オプション]

システムに搭載されているField Replaceable Unit (FRU)単位の情報を表示します。

【オプション】

-u FRU単位の搭載個数を表示します。

【使用例】

showhardconf

showhardconf -u

SPARC M12-1のFRU情報を表示します。

```
XSCF> showhardconf
SPARC M12-1;
+ Serial:TZ41711024; Operator_Panel_Switch:Locked;
+ System_Power:On; System_Phase:Cabinet Power On;
Partition#0 PPAR_Status:Running;
MBU Status:Normal; Ver:3051h; Serial:TZ1710D00R ;
+ FRU-Part-Number:CA08208-D001 A1 /9999999 ;
+ Power_Supply_System: ;
+ Memory_Size:256 GB; Type: C ;
CPU#0 Status:Normal; Ver:4242h; Serial:00070592;
+ Freq:3.200 GHz; Type:0x30;
+ Core:6; Strand:8;
MEM#00A Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E68AA6;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#01A Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E68A99;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#02A Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E68CAF;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#03A Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E45352;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#10A Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E6B8E9;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#11A Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E47B14;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#12A Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E68A9C;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#13A Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E69655;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#00B Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E47B5B;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#01B Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E47B5E;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#02B Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E47B95;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#03B Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E47C6A;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#10B Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E47B5A;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#11B Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E69170;
+ Type:83; Size:16 GB;
```

【続く】

【続き】

```
MEM#12B Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E47B13;
+ Type:83; Size:16 GB;
MEM#13B Status:Normal;
+ Code:ce8002M393A2K40BB1-CRC 00-33E47B58;
+ Type:83; Size:16 GB;
PCI#2 Name_Property:QLGC,qlc;
+ Vendor-ID:1077; Device-ID:2532;
+ Subsystem_Vendor-ID:1077; Subsystem-ID:015d;
+ Model:QLE2562 ;
OPNL Status:Normal; Ver:0101h; Serial:TZ1701F0CM ;
+ FRU-Part-Number:CA07363-D101 A0 /7060786 ;
+ Type: A ;
PSUBP Status:Normal; Ver:0101h; Serial:TZ1701P08P ;
+ FRU-Part-Number:CA20366-B15X 005AB/7087517 ;
+ Type: A ;
PSU#0 Status:Normal; Ver:303141h; Serial:HLKD1653000245;
+ FRU-Part-Number:CA01022-0755-M/0000000 ;
+ Power_Status:ON; AC:100 V; Type: B ;
PSU#1 Status:Normal; Ver:303141h; Serial:HLKD1653000261;
+ FRU-Part-Number:CA01022-0755-M/0000000 ;
+ Power_Status:ON; AC:100 V; Type: B ;
FANU#0 Status:Normal; Type: A ;
FANU#1 Status:Normal; Type: A ;
FANU#2 Status:Normal; Type: A ;
FANU#3 Status:Normal; Type: A ;
FANU#4 Status:Normal; Type: A ;
FANU#5 Status:Normal; Type: A ;
FANU#6 Status:Normal; Type: A ;
HDDBP Status:Normal; Type: A ;
```

SPARC M12-1に搭載されているFRUの数を表示します。

```
XSCF> showhardconf -u
SPARC M12-1: Memory_Size:256 GB:
```

FRU	Quantity
MBU	1
Type:C	(1)
CPU	1
Freq:3.200 GHz;	(1)
MEM	16
Type:83; Size:16 GB;	(16)
PCICARD	1
LINKCARD	0
PCIBOX	0
IOB	0
LINKBOARD	0
PCI	0
FANBP	0
PSU	0
FAN	0
OPNL	1
Type:A	(1)
PSUBP	1
Type:A	(1)
PSU	2
Type:B	(2)
FANU	7
HDDBP	1

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ホスト名の表示

【コマンド】

showhostname

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

showhostname [オプション]

マスタ筐体とXSCF がスタンバイ状態の筐体に設定されているホスト名を表示します。

【オプション】

-a

マスタ筐体とXSCF がスタンバイ状態の筐体に設定されているホスト名を表示します。

※-aと一緒に指定されている筐体名は無効となります。

【使用例】

showhostname -a

マスタ筐体とXSCF がスタンバイ状態の筐体に設定されているホスト名を表示します。

```
XSCF> showhostname -a
bb#00:scf0-hostname.example.com
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

HTTPSサービスの状態表示

【コマンド】

showhttps

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

showhttps

XSCFネットワークに設定されているHTTPSサービスの状態を表示します。

【使用例】

showhttps

HTTPSサービスの状態と鍵のインストール状態を表示します。

```
XSCF> showhttps
HTTPS status: enabled
Server key: installed in Apr 24 12:34:56 JST 2010
CA key: installed in Apr 24 12:00:34 JST 2010
CA cert: installed in Apr 24 12:00:34 JST 2010
CSR:
-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----
MIIBWjCCASsCAQAwgYExCzAJBgNVBAYTAmpqMQ4wDAYDVQQIEwVzdGF0ZTERMA8G
A1UEBxMIbG9jYXZlFTATBgNVBAoTDG9yZ2FuaXphdGlvbjEPMA0GA1UECxMG
:
:
38UHSg5Kqy9QuWHWMri/hxm0kQ4gBpApjNb6F/B+ngBE3j/thGbEuvJb+0wbycvu
5jrhB/ZV9k8X/MbDOxSx/U5nF+Zuyw==
-----END CERTIFICATE REQUEST-----
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

CPUコアの一時利用機能の状態／情報表示

【コマンド】

```
showinterimpermit
```

※platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

```
showinterimpermit [オプション]
```

CPUコアの一時利用機能の状態および情報を表示します。

【オプション】

```
-p ppar_id
```

表示対象のPPAR-IDを指定します。

```
-v
```

CPUコアの一時利用機能が再利用可能な状態であることを表示します。

【使用例】

```
showinterimpermit -p 0
```

```
showinterimpermit -v -p 0
```

PPAR-ID 0のCPUコアの一時利用機能の情報を表示します。(有効に設定し、残り日数が25日の場合)

```
XSCF> showinterimpermit -p 0
Interim Permit for PPAR 0: enabled [25 days remaining]
```

PPAR-ID 0について、CPUコアの一時利用機能が再利用可能な状態であることを表示します。

```
XSCF> showinterimpermit -v -p 0
PPAR-ID: 0
  Status: Interim Permit is disabled (can be enabled)

CPU Activation Information from the last time Interim Permit was enabled:
  Registered CPU Activation Keys (in units of cores):    16
  Purchased Cores Assigned to PPAR:                      8

Current CPU Activation Information:
  Registered CPU Activation Keys (in units of cores):    32
  Purchased Cores Assigned to PPAR:                      16
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

オペレーションパネルのCHECK LED状態表示

【コマンド】

showlocator

※useradm/platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showlocator [オプション]

オペレーションパネルのCHECK LEDの状態を表示します。

【オプション】

-a

現在接続されているすべてのCHECK LEDの状態を表示します。

-b bb_id

指定したbb_idに該当するSPARC M12/M10 システムの筐体およびクロスバーボックスのCHECK LEDの状態を表示します。

※省略した場合、自筐体のCHECK LEDの状態を表示します。

【使用例】

showlocator -b 10

showlocator -a

BB-ID 10のCHECK LEDの状態を表示します。

```
XSCF> showlocator -b 10
BB#10: Locator LED status: Blinking
```

すべてのCHECK LEDの状態を表示します。

```
XSCF> showlocator -a
XB-Box#80 : Locator LED status: Blinking
:
BB#00 : Locator LED status: Blinking
BB#01 : Locator LED status: Off
BB#02 : Locator LED status: On
:
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ログの表示

【コマンド】

showlogs

※platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showlogs [オプション]

エラーログ／イベントログ／パワーログなど指定したログを表示します。
ログは、デフォルトでタイムスタンプの古いものから順に表示されます。

【オプション】

-P timestamp

ログを単独で表示する場合に、ログのタイムスタンプを指定します。
エラーログとイベントログに対して指定できます。

-r

タイムスタンプの新しいログから表示します。

-v

通常のログ表示に加え、詳細な診断コード (Diagnostic Code) が表示されます。

エラーログとイベントログに対して指定できます。

※-Vとは一緒に指定できません。

-V

-vで表示される情報に加え、マシン管理詳細ログ情報およびPCIカード情報、I/O異常フォルトログ情報が
採取されている場合は、それらが表示されます。

エラーログに対して指定できます。

※-vとは一緒に指定できません。

【オペランド】

error

エラーログを表示します。(スキャンログを含む場合がある)

event

イベントログを表示します。

power

パワーログを表示します。

【使用例】

showlogs error

showlogs error -P Oct2012:45:312012 -v

showlogs error -P Oct2012:45:312012 -V

showlogs power

showlogs power -r

エラーログを表示します。

```
XSCF> showlogs error
Date: Oct 20 12:45:31 JST 2012
Code: 00112233-445566778899aabbcc-8899aabbccceeff0011223344
Status: Alarm Occurred: Oct 20 12:45:31.000 JST 2012
FRU: /BB#0/PSU#0
Msg: PSU failed
Date: Oct 20 15:45:31 JST 2012
Code: 00112233-445566778899aabbcc-8899aabbccceeff0011223344
Status: Alarm Occurred: Oct 20 12:45:31.000 JST 2012
FRU: /BB#1/PSU#1
Msg: PSU Input voltage too high
```

【続く】

【続き】

指定したタイムスタンプでのエラーログを、詳細(-v)に表示します。

```
XSCF> showlogs error -P Oct2012:45:312012 -v
Date: Oct 20 12:45:31 JST 2012
Code: 00112233-445566778899aabbcc-8899aabbccceeff0011223344
Status: Alarm Occurred: Oct 20 12:45:31.000 JST 2012
FRU: IOU#0/PCI#3
Msg: offline(vendor=FUJITSU, product=MAJ3182MC)
Diagnostic Code:
 00112233 44556677 8899
 00112233 44556677 8899
 00112233 44556677 8899
 00112233 44556677 8899aabb ccddeeff
 00112233 44556677 8899
```

指定したタイムスタンプでのエラーログを、より詳細(-V)に表示します。

```
XSCF> showlogs error -P Oct2012:45:312012 -V
Date: Oct 20 12:45:31 JST 2012
Code: 00112233-445566778899aabbcc-8899aabbccceeff0011223344
Status: Alarm Occurred: Oct 20 12:45:31.000 JST 2012
FRU: IOU#0/PCI#3
Msg: offline(vendor=FUJITSU, product=MAJ3182MC)
Diagnostic Code:
 00112233 44556677 8899
 00112233 44556677 8899
 00112233 44556677 8899
 00112233 44556677 8899aabb ccddeeff
 00112233 44556677 8899
Diagnostic Messages
 Jul 11 16:17:42 plato10 root: [ID 702911 user.error] WARNING: /
pci@83.4000/scsi@2/sd@0,0 (sd47):
 Jul 11 16:17:42 plato10 root: [ID 702911 user.error] incomplete
write- givin up
```

パワーログを表示します。

```
XSCF> showlogs power
Date          Event          Cause          ID  Switch
Oct 20 17:25:31 JST 2012 Cabinet Power On Operator       00  Service
Oct 20 17:35:31 JST 2012 PPAR Power On Operator       00  Locked
Oct 20 17:45:31 JST 2012 PPAR Power Off Software Request 00  Locked
Oct 20 17:50:31 JST 2012 Cabinet Power Off Self Reset     00  Service
```

パワーログをタイムスタンプの新しいログから表示します。

```
XSCF> showlogs power -r
Date          Event          Cause          ID  Switch
Oct 20 17:50:31 JST 2012 Cabinet Power On Operator       00  Service
Oct 20 17:45:31 JST 2012 PPAR Power On Operator       00  Locked
Oct 20 17:35:31 JST 2012 PPAR Power Off Software Request 00  Locked
Oct 20 17:25:31 JST 2012 Cabinet Power Off Self Reset     00  Service
```

[「XSCFコマンド一覧 II」に戻る](#)

認証、ユーザー権限に関する設定表示

【コマンド】

showlookup

※useradm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showlookup

認証とユーザー権限に関する設定を表示するコマンドです。

【使用例】

showlookup

認証とユーザー権限に関する設定を表示します。

```
XSCF> showlookup
Privileges lookup:Local only
Authentication lookup: Local and LDAP
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ネームサーバ、サーチパスの表示

【コマンド】

shownameserver

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

shownameserver

XSCFネットワークに設定されているネームサーバのIPアドレスの一覧、およびサーチパスを表示します。

【使用例】

shownameserver

shownameserver

XSCFネットワークに現在設定されているネームサーバを表示します。
(1つのネームサーバと1つのサーチパスが設定されている場合)

```
XSCF> shownameserver
nameserver 192.168.0.2
search     example1.com
```

XSCFネットワークに現在設定されているネームサーバを表示します。(ネームサーバおよびサーチパスが設定されていない場合)

```
XSCF> shownameserver
nameserver ---
search     ---
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ネットワークインターフェースの情報表示

【コマンド】

shownetwork

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

shownetwork [オプション]

XSCFに設定されているネットワークインターフェースの情報を表示します。

【オプション】

-a 全てのXSCFネットワークインターフェースに設定されている情報を表示します。

【オペランド】

interface

表示するネットワークインターフェースを指定します。
※-aオプションと一緒に指定した場合は無効となります。

【使用例】

shownetwork bb#00-lan#0

shownetwork -a

BB#00のLAN#0に設定されている情報を表示します。

```
XSCF> shownetwork bb#00-lan#0
bb#00-lan#0
  Link encap:Ethernet  HWaddr 00:00:00:12:34:56
  inet addr:192.168.0.100 Bcast:192.168.0.255 Mask:255.255.255.0
  UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500 Metric:1
  RX packets:411317 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
  TX packets:1325 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
  collisions:0 txqueuelen:1000
  RX bytes:151867214 (144.8 MiB) TX bytes:93257 (91.0 KiB)
  Base address:0xe000
```

SPARC M10-4S (クロスバーボックスなし)の場合で、設定されている情報を表示します。

```
XSCF> shownetwork -a
bb#00-lan#0
  Link encap:Ethernet  HWaddr 00:00:00:12:34:56
  inet addr:192.168.0.100 Bcast:192.168.0.255 Mask:255.255.255.0
  UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500 Metric:1
  RX packets:411317 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
  TX packets:1325 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
  collisions:0 txqueuelen:1000
  RX bytes:151867214 (144.8 MiB) TX bytes:93257 (91.0 KiB)
  Base address:0xe000

bb#00-lan#1
  Link encap:Ethernet  HWaddr B0:99:28:A1:62:36
  BROADCAST MULTICAST  MTU:1500 Metric:1
  RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
  TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
  collisions:0 txqueuelen:1000
  RX bytes:0 (0.0 b) TX bytes:0 (0.0 b)
  Base address:0x6000
```

[\[XSCFコマンド一覧\]に戻る](#)

NTP情報の表示

【コマンド】

showntp

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

showntp [オプション]

XSCFネットワークに設定されているNTP情報を表示します。

【オプション】

-a XSCFネットワークに現在設定されているすべてのNTPサーバを表示します。
 -l NTPサーバと同期しているかどうかを表示します。
 -s XSCFに設定されているstratum値を表示します。

【オペランド】

address

表示するNTPサーバのIPアドレスまたはホスト名を指定します。
 ※-aが指定されている場合は無効となります。

【使用例】

```
showntp -a
showntp -l
showntp -s
showntp -l
showntp ntp1.example.com
```

登録済みのNTPサーバをすべて表示します。setntpで-m prefer=offを設定した場合は、preferの文字が表示されません。

```
XSCF> showntp -a
client : enable
server : disable
server ntp1.example.com prefer
server ntp2.example.com
```

NTPサーバへの同期を確認し、結果を表示します。

```
XSCF> showntp -l
remote      refid      st t when poll reach delay offset jitter
-----
*192.168.0.27 192.168.1.56 2 u 27 64 377 12.929 -2.756 1.993
+192.168.0.57 192.168.1.86 2 u 32 64 377 13.030 2.184 94.421
127.127.1.0 .LOCL.     5 l 44 64 377 0.000 0.000 0.008
```

XSCFネットワークに設定されているstratum値を表示します。

```
XSCF> showntp -s
stratum : 5
```

NTPサーバを上位NTPサーバと同期させず、クライアントにサービスの提供もしない設定の場合、同期確認を行います。

```
XSCF> showntp -l
NTP is unavailable.
```

登録済みNTPサーバのDNSラウンドロビンが有効かどうかを表示します。

```
XSCF> showntp ntp1.example.com
pool ntp1.example.com
```

[\[XSCFコマンド一覧IIに戻る\]](#)

パスワードポリシーの設定表示

【コマンド】

showpasswordpolicy

※useradm権限が必要です。

【形式】

showpasswordpolicy

パスワードポリシーの設定を表示します。

【使用例】

showpasswordpolicy

パスワードポリシーの設定を表示します。

```
XSCF> showpasswordpolicy
Mindays: 0
Maxdays: 99999
Warn: 7
Inactive: -1
Expiry: 0
Retry: 3
Difok: 10
Minlen: 9
Dcredit: 1
Ucredit: 1
Lcredit: 1
Ocredit: 1
Remember: 3
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PCLの表示

【コマンド】

showpcl
 ※platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showpcl [オプション]

現在設定されている物理パーティション(PPAR)構成情報(PCL)を表示します。
 PCLとは、PPARやPPARを構成する論理システムボード(LSB)に設定できるハードウェアリソース情報です。

【オプション】

-a 全てのPPARの情報を表示します。
 -p ppar_id 表示するPPAR-IDを指定します。
 -v PCLのCfg-policy、No-Mem、No-IOの情報を追加して表示します。

【使用例】

showpcl -p 0
 showpcl -v -a

PPAR-ID 01に設定されているPCL情報を表示します。

```
XSCF> showpcl -p 0
PPAR-ID LSB PSB Status
00      00 00-0 Running
        01 01-0
        02 02-0
        03 03-0
```

すべてのPPARに対するPCLの詳細情報を表示します。

```
XSCF> showpcl -v -a
PPAR-ID LSB PSB Status No-Mem No-IO Cfg-policy
00      00 - Running System
        01 00-0 False False
.
.
-----
01      00 01-0 Powered Off unknown
        00 01-0 False True
.
.
-----
15      00 15-0 Running System
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PPARの動作モード表示

【コマンド】

showpparmode

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showpparmode [オプション]

指定した物理パーティション(PPAR)に現在設定されている動作モードを表示します。

【オプション】

-p ppar_id

表示するPPAR-IDを指定します。

-v

詳細な情報を表示します。

※-vオプションを指定した場合、PPARのイーサネット(MAC)アドレスも表示されます。

【使用例】

showpparmode -p 0

SPARC M10-1で、PPAR-ID 0に設定されているPPARの動作モードを表示します。

```
XSCF> showpparmode -p 0
Host-ID           :90071503
Diagnostic Level  :min
Message Level     :normal
Alive Check       :on
Watchdog Reaction :reset
Break Signal      :on
Autoboot (Guest Domain) :on
Elastic Mode      :off
IOreconfigure     :false
CPU Mode          :auto
PPAR DR (Current) :off
PPAR DR (Next)   :off
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

OpenBoot PROM環境変数、ブートスクリプトの表示

【コマンド】

showpparparam

※useradm/platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showpparparam [オプション]

指定した物理パーティション(PPAR)の次回起動時に設定される、
制御ドメインのOpenBoot PROM環境変数および、ブートスクリプトを表示します。

【オプション】

-c auto-boot

OpenBoot PROM環境変数auto-boot?の設定値を表示します。

-p ppar_id

表示対象のPPAR-IDを指定します。

【使用例】

```
showpparparam -p 0 -c auto-boot
```

PPAR-ID 0の制御ドメインに設定されているOpenBoot PROM環境変数auto-boot?の設定値を表示します。

```
XSCF> showpparparam -p 0 -c auto-boot
auto-boot?      :false
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

電源制御シーケンス中のPPAR詳細表示

【コマンド】

showpparprogress

※useradm/platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showpparprogress [オプション]

電源制御シーケンス中の物理パーティション(PPAR)の詳細な状態を表示します。

【オプション】

-p ppar_id 状態を表示するPPAR-IDを指定します。

【使用例】

showpparprogress -p 0

showpparprogress -p 0

電源の投入シーケンス中に、PPARの状態を表示します。(電源の投入が成功した場合)

```
XSCF> showpparprogress -p 0
PPAR Power On Preprocessing PPAR#0 [ 1/12]
PPAR Power On                PPAR#0 [ 2/12]
XBBOX Reset                   PPAR#0 [ 3/12]
PSU On                        PPAR#0 [ 4/12]
CMU Reset Start               PPAR#0 [ 5/12]
XB Reset 1                    PPAR#0 [ 6/12]
XB Reset 2                    PPAR#0 [ 7/12]
XB Reset 3                    PPAR#0 [ 8/12]
CPU Reset 1                   PPAR#0 [ 9/12]
CPU Reset 2                   PPAR#0 [10/12]
Reset released                 PPAR#0 [11/12]
CPU Start                     PPAR#0 [12/12]
The sequence of power control is completed.
```

電源の切断シーケンス中に、PPARの状態を表示します。(電源の切断が成功した場合)

```
XSCF> showpparprogress -p 0
PPAR Power Off                PPAR#0 [ 1/ 3]
CPU Stop                      PPAR#0 [ 2/ 3]
PSU Off                       PPAR#0 [ 3/ 3]
The sequence of power control is completed.
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PPARの状態表示

【コマンド】

showpparstatus

※useradm/platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showpparstatus [オプション]

物理パーティション (PPAR) の状態を表示します。

【オプション】

-a アクセスできるすべてのPPARの状態を表示します。

-p ppar_id 状態を表示するPPAR-IDを指定します。

【使用例】

showpparstatus -a

すべてのPPARの状態を表示します。

```
XSCF> showpparstatus -a
PPAR-ID       PPAR Status
00            Powered Off
01            Initialization Phase
02            Initialization Phase
03            Running
04            -
05            Hypervisor Aborted
06            Running
07            Initialization Complete
08            Initialization Phase
09            Initialization Phase
10            -
11            Powered Off
12            Running
13            Running
14            Powered Off
15            -
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

ルーティング情報の表示

【コマンド】

showroute

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

showroute [オプション]

XSCFに設定されているネットワークインターフェースの情報を表示します。

【オプション】

-a 全てのXSCFネットワークインターフェースに設定されているルーティング情報を表示します。
-n ホスト名の名前解決をしないで、IP アドレスを表示します。

【オペランド】

interface

表示するネットワークインターフェースを指定します。
※-aオプションと一緒に指定した場合は無効となります。

【使用例】

showroute bb#00-lan#0

showroute -n bb#00-lan#0

showroute -a

BB#00のLAN#0に設定されているルーティング情報を表示します。

```
XSCF> showroute bb#00-lan#0
Destination Gateway Netmask Flags Interface
192.168.0.0 * 255.255.255.0 U bb#00-lan#0
default 192.168.0.1 0.0.0.0 UG bb#00-lan#0
```

BB#00のLAN#0に設定されているルーティング情報を名前解決せずに表示します。

```
XSCF> showroute -n bb#00-lan#0
Destination Gateway Netmask Flags Interface
192.168.0.0 * 255.255.255.0 U bb#00-lan#0
0.0.0.0 192.168.0.1 0.0.0.0 UG bb#00-lan#0
```

設定されているルーティング情報をすべて表示します。

```
XSCF> showroute -a
Destination Gateway Netmask Flags Interface
192.168.10.0 * 255.255.255.0 U bb#00-lan#1
192.168.0.0 * 255.255.255.0 U bb#00-lan#0
default 192.168.0.1 0.0.0.0 UG bb#00-lan#0
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

SSHサービスの内容表示

【コマンド】

showssh
※useradm権限が必要です。

【形式】

showssh [オプション]
XSCFネットワークに設定されているSecure Shell (SSH) サービスの内容を表示します。

【オプション】

-c hostkey ホスト公開鍵を表示します。
 ※-cが省略された場合は-c hostkeyが指定されたときみなされます。
-c pubkey ユーザー公開鍵を表示します。

【使用例】

showssh
showssh -c pubkey

ホスト公開鍵の情報を表示します。

```
XSCF> showssh
SSH status: enabled
RSA key:
ssh-rsa AAAAB3NzaC1yc2EAAAABIwAAAIEAt0IG3wfpQnGr51znS9XtzwHcBBb/
UUOLN08SiIUXE6j+
avIxdY7AFqBf1wGxLF+Tx5pTa6HuZ8o8yUBbdZVJAAAAFQCfKPxarV+/5qzK4A43Qaigkqu/
6QAAAIBM
LQI22G8pwibESrh5Jm0hSxpLzI3P26ksI8qPr+7BxmjLR0k=
Fingerpr int:
1024 e4:35:6a:45:b4:f7:e8:ce:b0:b9:82:80:2e:73:33:c4 /etc/ssh/
ssh_host_rsa_key.pub
DSA key:
ssh-dss
AAAAB3NzaC1kc3MAAACBAJSy4GxD7Tk4fxFvyW1DONUDqZQPY3PuY2IG7QC4BQ1kewDnbIB8
/
JEqI+8pnfbWzmOWU37KHL190EYNAv6v+WZT6REIU5Pyb8F16uq96L8QDMswFIICMZgrn+iIJN
Str6r8
KDJfw0QMmK0eeDFj2mL40NOvalQ83+rRwW6Ny/yF1Rgv6PUuQRLw4VeRb+uOfmPRpe6/
kb4z++lOhtp
W19bay6CK0nrFRok+z54ez7BrDFBQvUNzX9PyEFezJG9ziEYVUag/23LIAiLxxBmW9pqa/
WxC21Ja4RQ
VN3009kmVwAAAIAON1LR/
9Jdd7yyG18+Ue7eBBJHrCAOpkSzfzFFj5XUzQBdabh5p5Rwz+1vr iawFI
Z19j2uhM/3HQdrvYSVBEdmJaasF9hB6T/
uFwP8yqtJf6Y9GdjBAhWuH8F13pX4BtvK9IeldqCscn0uu0
e2rIUoI6GICMr64FLOYYSwfbwLIZ6PSA/yKQe23dwfkSfqcwQZnq/
5pThGPi3tob5Qev2KCK20yEDMCA
OvVIMhqHuPNpX+hE19nPdBFgzQ==
Fingerpr int:
1024 9e:39:8e:cb:8a:99:ff:b4:45:12:04:2d:39:d3:28:15 /etc/ssh/
ssh_host_dsa_key.pub
```

現在ログインしているユーザーアカウントのユーザー公開鍵を表示します。

```
XSCF> showssh -c pubkey
Public key:
1 ssh-rsa
AAAAB3NzaC1yc2EAAAABIwAAAIEAzFh95SohrDgpnN7zFCJCVNy+jaZPTjNDxcid
QGb ihYDCBttI4151Y0Sv85FJwDpSNHNKovLMLYljtBmUMPbGgGVB61qskSv/
FeV44hefNCZMiXGItIIPk
POnBK4XJpCfoFbPXNUHDw1rTD9icD5U/wRFGSRRxFI+Ub5oLRxN8+A8=abcd@example.com
2 ssh-rsa
CSqGS1b3DQeJARYHZWUubWfPbDCBnzANBggkqhkiG9w0BAQEFAA0BjQAwYkCgYEA
nkPntf+TjYtyKINyFb0/YavFpUzkYTLHdtOFbz/
tZmGd3e6Jn34A2W9EC7D9hJLsj+kAP41Al6wFwG07
KP3H4iImXOUysjI9Hyk4jLBU51sw8JqvT2utTjItV5mFPKL6bDcAgY9=efgh@example.com
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

縮退されたFRU表示

【コマンド】

showstatus

※useradm/platadm/platop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showstatus

縮退されたField Replaceable Unit (FRU)を表示します。

【使用例】

showstatus

showstatus

縮退された部品を表示します。(縮退されたFRUが無い場合)

```
XSCF> showstatus
XSCF>
```

縮退された部品を表示します。(MBU上のメモリが故障のため縮退している場合)

```
XSCF> showstatus
MBU Status:Normal;
* MEM#0A Status:Faulted;
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

Telnetサービスの状態表示

【コマンド】

showtelnet

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

showtelnet

XSCFネットワークに設定されているTelnetサービスの状態を表示します。

【使用例】

showtelnet

XSCFネットワークに現在設定されているTelnetサービスの状態を表示します。

```
XSCF> showtelnet
Telnet status: enabled
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFのタイムゾーン表示

【コマンド】

showtimezone

※useradm/platadm/platop/auditadm/auditop/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

showtimezone [オプション]

XSCFのタイムゾーンを表示します。

【オプション】

-c tz

タイムゾーンを表示します。

【使用例】

showtimezone -c tz

タイムゾーンを表示します。

```
XSCF> showtimezone -c tz
Asia/Tokyo
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFユーザーアカウント情報の表示

【コマンド】

showuser
※useradm権限が必要です。

【形式】

showuser [オプション]
XSCFユーザーアカウント情報を表示します。

【オプション】

- a パスワードの有効性およびアカウントの状態に関する情報を表示します。
※XSCF ユーザーアカウントに対してのみ有効です。
- p ユーザーに割り当てられているすべての権限を表示します。
※ローカルユーザーとリモートユーザーに対して有効です。
- u ユーザーID (UID)を表示します。
※ローカルユーザーとリモートユーザーに対して有効です。

【使用例】

showuser -a
showuser -p
showuser -u

パスワードおよびアカウントの有効性に関する情報を表示します。

```
XSCF> showuser -a
User Name:      user01
Status:         Enabled
Minimum:        0
Maximum:        99999
Warning:        7
Inactive:       -1
Last Change:    Aug 22, 2005
Password Expires: Never
Password Inactive: Never
Account Expires: Never
```

ユーザー権限の情報を表示します。

```
XSCF> showuser -p
User Name:      user01
Privileges:     useradm
                platadm
```

ユーザーID (UID)を表示します。

```
XSCF> showuser -u
User Name:      user01
UID:            104
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

PSBの初期診断

【コマンド】

testsb
 ※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

testsb [オプション]
 指定した物理システムボード(PSB)の初期診断を行います。

【オプション】

-a 搭載されているすべてのPSBを診断します。
 -p 診断処理の途中でOpenBoot PROMのprobe-scsi-allを実行し、結果を表示します。
 -s 診断処理の途中でOpenBoot PROMのshow-devsを実行し、結果を表示します。
 -v 詳細な情報を表示します。
 -y プロンプトに対して自動的に「y」(yes)と応答します。

【使用例】

testsb -v -p -s -a -y

搭載されているすべてのPSBの初期診断を行い、詳細な情報を表示します。

```
XSCF> testsb -v -p -s -a -y
Initial diagnosis is about to start. Continue?[y|n] :y
PSB power on sequence started.

POST Sequence 01 Banner
LSB#00: POST 5.8.0 (2016/11/28 11:39)
POST Sequence 02 CPU Check
POST Sequence 03 CPU Register
:
:
POST Sequence 1E System Status Check
POST Sequence 1F Prepare To Start Hypervisor
POST Sequence Complete.

Hypervisor version: @(#)Hypervisor 1.5.13 2017/01/31 13:00 1.5.12+4
Configuring System Board....Completed.
:
:
/packages/kbd-translator
/packages/SUNW,asr
/packages/dropins
/packages/terminal-emulator
/packages/disk-label
/packages/deblocker
/packages/SUNW,probe-error-handler
/packages/SUNW,builtin-drivers
:
:
PSB Test Fault
-----
00-0 Passed Normal
```

[\[XSCFコマンド一覧IIに戻る\]](#)

ファームウェアの版数表示

【コマンド】

version

※platadm/fieldeng権限のいずれかが必要です。

【形式】

version [オプション]

ファームウェアの版数を表示します。

【オプション】

-c xcp

XCP総合版数を表示します。

【使用例】

version -c xcp

XCP総合版数を表示します。

```
XSCF> version -c xcp
BB#00-XSCF#0 (Master)
XCP0 (Current): 2320
XCP1 (Reserve): 2320
```

[「XSCFコマンド一覧」に戻る](#)

XSCFログイン中のユーザーアカウント一覧表示

【コマンド】

who

※このコマンドを実行するのに必要な権限はありません。

【形式】

who

XSCFにログインしているユーザーアカウントを一覧表示します。

【使用例】

version -c xcp

XSCF にログインしているユーザーアカウントを一覧表示します。

```
XSCF> who
USER      TTY      IDLE  TIME          HOST
Sxf       pts/0    00:00  Jul 17 05:29:11  jjjj.gggg.fujitsu.com
```

[\[XSCFコマンド一覧IIに戻る\]](#)

